

池田発、世界を変えた大発明

安藤百福

10月から安藤百福氏とその妻、仁子氏の半生をモデルにしたNHKの連続テレビ小説『まんぷく』が放映開始となる。百福氏の生涯を振り返った。

小さな研究小屋で生まれた「チキンラーメン」

約100億食。昨年1年間に世界で消費されたインスタントラーメンの数だ。世界中に愛されている食の大発明が池田発祥であることは、ご存知の方も多いだろう。

インスタントラーメンの生みの親にして『日清食品株式会社(現『日清食品ホールディングス株式会社』)』創業者の安藤百福氏は1910年、日本統治下の台湾で生まれた。呉服屋を営む祖父父母のもとで活気ある商人たちの姿を見て育ち、幼い頃から商売の面白さを感じていたという。22歳で起業した繊維関連の会社を皮切りに、激動の戦中・戦後にもまれながらさまざまな事業を手がけた。ある時、知人の頼みで理事長を務めた信用組合が経営破綻。全財産を失い、手元に残ったのは池田市の借家とわずかな現金だけだった。



妻の仁子氏とは知人の紹介で出会い、1945年に結婚。百福氏によれば「大変義理堅くやさしい女性」で、一目惚れだったという。終戦後の混乱や事業の浮き沈みをくぐり抜け、生涯音楽をともにした

た。この時すでに47歳。しかし百福氏はここから再起をはかる。自宅の庭に小さな研究小屋を建て、インスタントラーメンの開発に着手したのだ。

脳裏にあったのは戦後しばらくの頃、ある冬の夜に梅田で見かけた光景だ。物資も少ない中、1杯のラーメンを求めて屋台に長い行列ができ、人々は震えながらもまだかまだかと順番を待っていた。「衣食住の中でも、食は人間の命を支える一番大切なもの」。そう確信した百福氏は早朝から夜中まで研

究に没頭し、1年をかけて試作と改善を繰り返した。

こうして1958年、世界初のインスタントラーメンである「チキンラーメン」が誕生。「すぐに食べられる魔法のラーメン」として話題を呼び、時代を代表する大ヒット商品となった。その後一代で大会社に築き上げ、61歳で「カップヌードル」を開発。さらには95歳の時に宇宙食「ラーメン」「スペース・ラム」を世に送り出し、「ミス・ターヌードル」の異名をとった。



▲「カップヌードルミュージアム 大阪池田」内

大発明1 -48歳-

チキンラーメン

池田で生まれた世界初のインスタントラーメンにして、今なお人気のロングセラー商品。「おいしい、安全、簡単、安い、長期保存ができる」を目標に作られた。蒸した麺を油で揚げて水分をはじき飛ばす「瞬間油熱乾燥法」のヒントとなったのは、妻・仁子氏が揚げていた天ぷら。今年8月25日に発売60周年を迎えた。



百福氏を突き動かした好奇心と努力

これほどの功績をあげた百福氏は、生前どんな人物だったのだろうか。『日清食品ホールディングス株式会社』広報部主任の川手さんは、20年ほど前、代表取締役会長であった百福氏について「私があいさつをするとき『君はどんな仕事をしているの?』と、気さくに声をかけ、新入社員の仕事にまで関心を寄せていました」と話す。一方、子どもの頃から優れ

た数的感覚の持ち主で、経営判断の場面では周囲に鋭い質問を投げかけることもあった。また自身の目で情報収集を怠らず、機会があればスーパーマーケットなどを訪れる現場主義の人だったという。

好奇心のかたまりで、アイデアマン。枕元にメモと筆記具を用意して就寝し、起き抜けにひらめいたことを書き付けられるようにしていた。「いつでも人の役に立つことや、世の中を明るくすることを探っていたんです」と川手さん。そして「度よい発想が浮かべば、実現のためにいくらかでも努力を重ねた。たとえ「カップヌードル」の容器を開発した時は、当時国内に加工技術がなかったため、新たに合弁会社を設立してアメリカから技術を導入している。



2000年、中国山東省の一般家庭で麵を打つ百福氏。いつも好奇心にあふれ、食文化を巡る探訪ツアーでは市場の食べ物や味を味わったり、自分の手で調理を体験したりと五感で感じ取ることが欠かさなかった。手先が器用で、初めての作業でもすぐにコツをつかんだという

「百福、まだまだ思案中……」

48歳で「チキンラーメン」を発明した百福氏は、「人生に遅すぎるということはない」という言葉を残している。池田市にある「カップヌードルミュージアム 大阪池田」は、子どもたちに発明や発見の面白さを伝えるためにと開いた施設だ。館内に再現された研究小屋をのぞくと、百福氏が特別な機械などではなく、身近な調理器具を使っていたことがわかる。「カップヌードルドラマシアター」では

「あの世でも絶対、何か面白いアイデアはないかと思案してるから」と。亡くなる3日前にはゴルフを楽しみ、前日には社員の前で訓示を述べるなど、最後まで活動的に過ごしていた。「これ、会長ならどう言うかなあ」。今でも社員同士がよく話し合うという。

お湯を注げば数分で食べられるインスタントラーメン。その手軽さの中には長い年月と情熱が込められていた。出来上がりを待ちながら、「誰もがすぐにおいしいものを食べられる世界を作ろう」と生涯を捧げた人に思いを馳せたい。

大発明2 -61歳-

カップヌードル

容器が包装材料にも、調理器具にも、どんぶりにもなる革新的なアイデアで世界初のカップ麺として「チキンラーメン」の13年後に誕生。実現には課題も多く、着想から発売まで5年を費やしたが決してあきらめなかった。「随所に工夫を凝らした、とても安藤百福らしい商品です」(川手さん)。



大発明3 -95歳-

スペース・ラム



2005年、『デイスカバリー号』に搭乗する野口聡一宇宙飛行士の「宇宙で食べたいものはラーメン」という発言から実現した宇宙食ラーメン。船内の安全に配慮し、無重力状態でも飛び散りにくいところのあるスープと、低温のお湯で戻る一口サイズの麺でできており、味はしょうゆ、みそ、とんこつ、カレーの4種類。残念ながら一般発売はしていない。



2005年、『デイスカバリー号』に搭乗する野口聡一宇宙飛行士の「宇宙で食べたいものはラーメン」という発言から実現した宇宙食ラーメン。船内の安全に配慮し、無重力状態でも飛び散りにくいところのあるスープと、低温のお湯で戻る一口サイズの麺でできており、味はしょうゆ、みそ、とんこつ、カレーの4種類。残念ながら一般発売はしていない。

取材協力



カップヌードルミュージアム 大阪池田
(日清食品ホールディングス株式会社)

住所 / 池田市満寿美町 8-25
電話 / 072-752-3484
入館料 / 無料(体験は有料)
http://www.cupnoodles-museum.jp
抽選で「ひよこちゃん」グッズ特別セットをプレゼント! 詳細はP13へ